明日をもっと、ここちよく
GUNZE

NEWS RELEASE

2026 年 11 月 26 日
グンゼ株式会社

報道関係各位

「もう、前の下着には戻れない」ゴムによる締め付けや縫い目ストレスからの解放へ。
『KIREILABO』15年の歩みと、快適な着ごこちを追求した「3つの日本初」
―グンゼ創業130周年・肌着製造80周年記念。ロングセラーブランドLP第8弾、11月26日（木）公開―

グンゼ株式会社（本社：大阪市北区、社長：岡　高広）は、創業130周年を記念した連載リリースの最終回として、肌へのやさしさに徹底的にこだわり続けるブランド「KIREILABO（キレイラボ）」のLPを公開いたしました。これまでずっと愛用いただいているお客さまへの感謝を込めて、お使いの商品の魅力をさらに知ることで、もっと好きになっていただきたい――。そんな思いから、お客様の声や魅力をLPでご紹介しています。

※いただいたレビューのうち嬉しいお声を紹介しています。

2010年のデビュー当時、下着には「綺麗に見せること」や「体型を美しく整えること」が重視されるなか、「肌へのやさしさ」という新たな価値に着目した「KIREILABO」。締め付けや縫い目による肌への負担を軽減し、素肌に寄り添う快適な着心地を追求してきました。

本リリースでは、15年以上にわたり進化を続けてきた「KIREILABO」の技術革新の歩みと、その根底にある「着用する方への徹底した配慮」を紐解きます。



■開発背景――「我慢する下着」から「ストレスフリー」へ。大人の女性の「肌の違和感」に着目

2010年前後、女性のライフスタイルやファッションが多様化する中で、インナーにも「ボディラインを綺麗に整える機能」だけでなく、「過度な締め付け感のない、自然でストレスフリーな着心地」を求めるニーズが広がりつつありました。

そうした中でグンゼが着目したのが、年齢を重ねるにつれて生じる女性の「肌の違和感」でした。加齢やホルモンバランスの変化に伴う肌の乾燥や敏感さに加え、従来の下着による「ワイヤーやゴムの締め付け跡」「縫い目や洗濯タグによるチクチク感や擦れ」など、日常生活の中にはさまざまな肌悩みが存在していました。

こうした背景から、グンゼは「見た目を気にして着ごこちを我慢する下着」から、「見た目もきれいに、肌を健やかに守るスキンウェア」へと発想を転換し、2010年に「KIREILABO」を発売。



2010年のパッケージ

女性特有の年齢に伴う身体や肌の変化に着目し、下着の快適性を追求する中で、「低刺激」「低着圧」「蒸れにくい」「動きやすい」という4つの条件を満たす下着の開発に取り組んできました。こうした肌への負担をできる限り軽減したいという思いが、「完全無縫製®」をはじめとするシームレス技術の開発につながっています。

■シームレスの原点――業界の常識を覆した「3つの日本初」

2010年代初頭、市場に存在していたシームレスインナーは、ナイロンなどの化学繊維を多く使用しており、伸縮性や滑らかさがある一方で、「汗を吸いにくくベタつく」「肌に密着してムレやすい」といった課題がありました。そこでグンゼは、長年培ってきた綿素材に関する知見と独自の技術を融合。天然素材ならではのやさしい肌触りを活かしながら、体に心地よくフィットし、切ってもほつれにくいフリーカットの「綿混高ストレッチ素材」を新たに開発しました。

さらに、快適な着心地を追求するため、独自の接着技術も開発。これらの技術をもとに、グンゼはシームレスインナーの分野で「3つの日本初」を実現しました。

①綿65%使用の完全無縫製®インナー

縫い糸を一切使用しない「完全無縫製」でありながら、化繊が主流だった市場で初となる「綿混（綿65%）」を実現。肌あたりのやさしさと高い伸縮性を高次元で両立しました。

②丸編みの胸パッド接着インナー

筒状に編み上げる「丸編み」を採用することで、“脇の縫い目”までもなくしました。さらに、バスト下やアンダーのゴムによる締め付けをなくし、快適にフィットする構造を実現。

③袖も接着で取り付けた完全無縫製®インナー

肩から腕の可動域を妨げず、縫い目のゴロつき感を排除した立体接着構造。



生地同士を接着する独自技術

これらの技術はすべて、「着ごこちの良さ」を追求する「KIREILABO」のものづくりへの思いから生まれたものです。肌へのやさしさと快適性を両立するために積み重ねてきた技術革新が、現在の「KIREILABO」の礎となっています。

吉川美紅（インナーウェア統括部　企画開発グループ　商品企画課・入社5年目）

グンゼは長年にわたり、肌着によるストレスを少しでも減らし、毎日を心地よく過ごしていただくための商品づくりを続けてきました。「KIREILABO」完全無縫製®インナーの「肌の幸せを一番に考えたら、縫い目はなくなりました」という言葉は、その想いを表しています。
肌にあたる縫い目やタグのチクチク感までもなくしたい。そんなシンプルな願いから試行錯誤を重ね、たどり着いたのが完全無縫製®というかたちです。肌へのやさしさと快適な着ごこちを追求し、毎日身につけたくなるインナーを今も変わらず目指しています。

■徹底した肌へのやさしさ――「肌に直接触れるものだから」突き詰めた科学的検証

ブランドの立ち上げ当時、開発チームが掲げたのは「下着は単なる衣類ではなく、肌の一番外側を覆う『肌の上着』である」という強い想いでした。肌へのやさしさを感覚だけで判断するのではなく、客観的なデータに基づいて検証するため、衣類の開発にとどまらない研究を重ねてきました。

【加工剤の安全性も追求する「細胞生存率」へのこだわり】

肌に直接触れるインナーだからこそ、「KIREILABO」などに採用されているグンゼ独自の保湿加工（スキンタッチ加工など）では、使用する加工剤そのものの安全性も徹底的に追求。化学的な刺激に対する安全性を客観的に評価するため、培養した皮膚細胞を用いた「細胞生存率」試験を実施し、着用時には目に見えない部分にまで細やかな配慮を重ねています。

明日をもっと、ここちよく
GUNZE

NEWS RELEASE

【肌の有識者との共同研究】
皮膚科専門医などの有識者の知見を取り入れ、下着による化学的・物理的な刺激と、肌の「チクチク感」との関係についても検証。肌への負担を軽減するための低着圧・低刺激設計の重要性を、数値でも裏付けし、追求してきました。

こうした研究開発の積み重ねは、洗濯タグをなくす「転写プリント」、「スキンタッチ加工（保湿加工）」、そして縫い糸を使わずに生地を接着する「完全無縫製®」など、さまざまな技術にも活かされています。肌に直接触れるものだからこそ、目に見えない部分にまでこだわる。その姿勢が、「KIREILABO」のものづくりを支えています。


洗濯タグをなくす「転写プリント」

■15年目の新たな進化――完全無縫製®×「肌側オーガニックコットン100%」への到達
2010年の誕生以来、時代のニーズに合わせて進化を重ねてきた「KIREILABO」は、ブランド15周年を迎えた現在もその挑戦を止めていません。

長年培ってきた接着技術と素材開発をさらに深め、縫い目のない「完全無縫製®」の快適性はそのままに、肌にあたる内側すべてを「オーガニックコットン100%」にした新素材を開発。通常の綿100%インナーにはない高いストレッチ性を確保しながら、優しい肌ざわりと低刺激を両立させました。



「変わらないやさしさ」を守る一方で、「進化すべき快適さ」を追求し続けること――。この飽くなき探求心こそが、「KIREILABO」が世代を超えて愛され続ける理由です。

■ご愛用者さまの声
公式通販サイト等に寄せられたレビューには、従来の縫い目やゴムのストレスから解放された喜びの声が溢れています。一度この快適さを体感した読者がリピートし続ける、「KIREILABO」への圧倒的な信頼を示す声の一部をご紹介します。※いただいたお声のうち、うれしいお声を抜粋しています

30代になってから夏場の下着を色々試していましたが、KIREILABOの下着にしてからは夏もストレスフリーです。また、ヨガをやっているのでどんなヨガレギンスでも響かず安心感があります。
（KIREILABOを使用したことがない方に）白いごはんのような存在だよ、とお伝えしたいです。派手ではないし、パッと見だけではそのよさはわからないかもしれないけど、あるのが当たり前、いつも必ずストックしておきたい下着です。――ご愛用者様アンケートより

初めて着用した瞬間に「これいい！」と直感。着心地の良さに惚れました。加えて年齢的に襟ぐり、脇が開いているのは厳しいのですが、これは大丈夫で、かつ野暮ったくないのがとても嬉しい。全世代にお勧めしたいです！！
――ご愛用者様アンケートより

母も肌が弱くいろいろな下着を試していたようですが、KIREILABOを教えてあげてからは、これ一択になりました。肌着のストレスがなくなりますよ。
――ご愛用者様アンケートより

明日をもっと、ここちよく
GUNZE

NEWS RELEASE

足ぐりの締め付け感が一切なくストレスフリー。今まで悩んできたのが嘘のよう。パンツはこれ一択です。
――商品レビューより

こうしたご愛用者さま一人ひとりの実体験から生まれる信頼や、家族や身近な人へと広がる愛用の輪が、「KIREILABO」を長年支え続けてきました。

■連載最終回に寄せて――8つのロングセラーが紡いだ、グンゼの「着ごこち」の未来
2026年、弊社は創立130周年・肌着製造80周年を迎えました。本連載では全8回にわたり、様々な時代背景の中でお客様の悩みに向き合ってきたロングセラーブランドの歩みをご紹介してきました。

『快適工房』の「『変わらない』を続ける覚悟」も、
『SABRINA』の「変わる時代に寄り添い続ける想い」も、
『BODY WILD』の「挑戦し続ける姿勢」も、
『Tuché』の「自分らしい彩りと高揚感を届ける楽しさ」も、
『SEEK』の「本物の質感を極める大人の美学」も、
『the GUNZE』の「綿100%の可能性を愚直に探求する誠実さ」も、
『HOTMAGIC』の「過酷な寒さから大切な人を守る執念」も、
そして『KIREILABO』の「肌を我慢から解放する徹底的な配慮」も――。

ブランドごとに大切にしてきた価値や歩みは異なりますが、その根底に一貫してあるのは「肌に直接ふれるものだからこそ、どこよりも真面目に、誠実に、最高の着ごこちを届けたい」というグンゼのモノづくり精神です。

グンゼは次の100年も、変わらない安心と進化した快適をお届けし、一人ひとりの毎日に心地よく寄り添い続けてまいります。

■公開ブランドスケジュール

月	ブランドとテーマ
4月	25年以上愛され、累計出荷4.7億枚。なぜ「快適工房」（1994年～）が選ばれ続けるのか。
5月	“常に時代のベーシックであり続けるために、7回の進化” 変わりゆく市場で国内生産にこだわったストッキングブランド『SABRINA』の30年
6月	「これまでにない」を追い続けて28年。日本のボクサーパンツのパイオニア「BODY WILD」 歴代MDが繋いできた“心と身体にフィットするカッコよさ”の歴史
7月	"柄ストッキングブーム"を生んだ『Tuché』 脚もとから自分らしいおしゃれを広げながら、ファッショントレンドとともに歩み続けた25年
8月	「本物の上質さと機能性」――本質を知る大人が選ぶ名脇役 なぜトラッドを愛する男たちは「SEEK」を選び続けるのか？
9月	「いろいろ試した。最後に辿り着いたのはグンゼの綿100%だった。」 一度綿から離れた大人も戻ってくる「the GUNZE」の想い『一生、綿100%宣言』
10月	思わず大切な人に贈りたくなるのはなぜか？厚手の綿肌着が主流だった時代から、 吸湿発熱インナー『HOTMAGIC』が切り拓いてきた防寒の選択肢
11月	「もう、前の下着には戻れない」ゴムによる締め付けや縫い目ストレスからの解放へ。 『KIREILABO』15年の歩みと、快適な着ごこちを追求した「3つの日本初」

KIREILABO 販売先： GUNZE STORE（グンゼ公式通販）、グンゼ直営店

■関連リンク
KIREILABO LP：https://www.gunze.jp/store/e/elongseller/#kireilabo
130周年記念サイト：https://www.gunze.co.jp/130th/
KIREILABO　商品一覧：https://www.gunze.jp/store/r/r5295/?brand=kireilabo